

民報 ゆうばり

「櫻井 あきさんを囲む集い」各所で

住民とのネットワーク・国会・道議会との連携で「命と暮らし」を守ります！



希望の持てる再生計画を求めてきました。と述べ、「議会改革や三者協議だけに頼らないまちづくり」として

地域のみなさんと共に
櫻井あきさんは手作りのリーフレットを手に紹介しながら「社会福祉協議会で3年間務めてきた経験やつながりを生かして、これからは地域のみなさんの声を集め、共に進んでいき

11月20日(日)は紅葉山で、翌日21日(月)は清陵町で、次期市議予定候補である「櫻井あきさんを囲む集い」が開かれました。紅葉山では会場の新生クラブに20代から90代までの17名が次々に訪れました。

住民の声に耳を傾け これから「政策作り」

たいと思っています。地元夕張に少しでもお役に立てるならと立候補を決意しました。」と述べました。

「暮らしを守り 地域再生へ向けて 活動を続けた20年

次にくまがい桂子市議から、初当選からこれまで約20年の活動報告です。

くまがい市議は「財政破綻は市の自己責任ではありません。議員でなかった時にも産廃埋め立て施設の建設計画の反対運動など、住民の声を集めて、暮らしを守る運動をし、

●「議会懇談会」、「夜間議会」、「議会基本条例」の実現。
●「傍聴席への階段に手すり」の増設。
●「夕張市防災マップ」の作成、配布。
●「ノンステップ(低床)バス」の導入。
●診療所移転に向けて「医療保険協議会」の設置。
●「地域おこし協力隊」制度の導入。
●市職員の「待遇改善」と「増員」等を報告しました。

市民の声を 議会へ反映

また、市民要望からの実現として
●平屋で「玄関前の除雪がいらぬ市営住宅」の建設。
●子どもの医療費は中学卒業まで無料化。
●放課後学習支援や公設塾の設置。
●旧校舎を活用した居場所づくりや地域力フェの実現。
●「石炭博物館」を観光施設から教育施設に。
●プレミアムチケット



様々な年代が集まった新生クラブでの「つどい」

トの飲食店限定枠の実現。

今度はこの仕事を 櫻井あきさんに!

夕張市の財政破綻から現在まで、再生団体でも力を合わせて実現してきた成果を報告し、「今度はこの仕事を櫻井あきさんにたくします。ぜひ応援をお願いします。」と述べました。

要望・激励続々と

意見交流では、参加者からは
☆マイナンバーカードへの不安と疑問。
☆免許返納後の買い物の不便さ、バス

の本数を維持してほしい。
☆物価高騰で四苦八苦している。早く消費税の引き下げをしてほしい。
☆メロンの売り込みをネットでもどんどん行い、お祭りも復活させて町おこしをしてほしい。
☆軍事費を増やすのをやめて、医療費や介護保険の値上げを廃止してほしい。等の声が。
21日、清陵町では、☆浴場までの道に街灯を増やしてほしい。

☆雪害で窓が割れる前に市営住宅の屋根の雪下ろしをしてほしい。
☆雨漏りなどで住宅の立ち退きを市から迫られる住民が何人もいるが、高齢になつてからの引越は体にも心にも負担。なるべく地元で暮らしたい。
等々、切実な訴えが出されました。また、「櫻井さんのファンです」と話す

たいせつな議席引き継ぐ

おわりに、櫻井さんは「沢山のご意見をありがとうございます。これからの政策作りを生かします。日本共産党の大切な議席を引き継がせてください。」と述べ、合わせて現在配布中の市政アンケートへの協力を求めました。

<次回つどいのお知らせ>

- ★12月10日(土):末広 恵集会所
 - ★12月11日(日):南清水沢 りすた
- どちらも 13:30~
どなたでも大歓迎~どうぞご参加ください!

要請書2点を携え、市教育長を訪問 「新日本婦人の会夕張支部」

11月28日、新日本婦人の会夕張支部は、様子を常任委員の熊谷桂子さんが伝えた。中学生の娘をもつ櫻井暁さんが、子どもさんやそのお友達から聞いた実態を話しました。

要請1・学校トイレへの生理用品の設置を進めてください。
要請2・学校給食は無償にし、食材は地場産・有機食材を使用してください。

これに対し教育長は「いずれにしろ、子どもが困っているという話は聞いていない。トイレ個室に常備するのは、コロナ防止対策の面で難しい。要請2については、財源があればやりたいし、給食は教育活動の一環として大事である。将来的に子育て支援として医療費、保育費等と連動しいずれはやりたい」と述べました。その後懇談に移り、



教育長に要請する新婦人の会代表



くずさんの 夕張歴史散歩(192)

人間の働くところでない (高温現場でのたたかい①)

本稿では、明治に夕張炭鉱の開坑以来数々の炭鉱労働者のたたかきを紹介してきました。

連載の第1回目では、北海道で初めてのメーデーは夕張だったと書きました。そのほか、歴史に残るたたかきの足跡を多く記し、本稿をにぎわしました。

二鉱三区の高温闘争

1965年(昭和40)7月、北炭夕張の二鉱三区の現場で、一斉に就労拒否のたたかきが起こりました。地底深く掘り進められる炭鉱は、深部になるにつれ地熱は高くなっていきます。また、場所によっても地熱に大きな差があります。

問題になった二鉱三区左ロングという採炭現場は、前の年の12月に着手しましたが、その時点でさえ上部29度C・下部で27度Cと、かなり地熱の高い現場でした。年が明けて4月になると採炭現場(ロング)の上部は30度Cに達し、労働自体が無理になってきました。あらかじめ決められた作業量は(標準作業量・労使で協議取り決め)遂行できず、現場から作業量の削減交渉が行われます。

お断りとお願ひ

筆者は炭鉱労働とは無縁であり、炭鉱に入坑したことはありません。今回の執筆にあたって、まったくの素人が文献や資料を読んだり、直接聞いたりしてまとめたもので、臨場感からも遠いものがあります。

事実と違っていたり、状況などについて気になる箇所が多いと思います。読者の方々からのご指摘をお待ちしています。



岩渕 友「国会かけある記」
参議院議員

住民とつながる党議席 岩渕 友

党市議や支部の方と「しんぶん赤旗」購読の訴えに歩きました。どこでも「国会ひどいねえ」と話題になります。

統一協会との関係、政治とカネの問題などで大臣が次々と辞任し、他にも辞任しそうな大臣がまだいます。総理自身の疑惑もあり、任命責任とともにその責任が厳しく問われています。

生活相談をしたことがあるというお宅で、話を聞き心が痛みました。勤めていた会社の社長さんが、営業が困難になり自ら命を絶ってしまったというのです。しかもそれを見つけたのはお子さんだったといえます。

続くコロナ禍に物価高騰が営業を直撃するもとで政治が一番やらなければならぬ、国民の命とくらしを守るといふことがないがしろにされている。怒りでいっぱいになりました。

タクシー運転手さんからも実態をお聞きしました。コロナ禍で売り上げが大幅に減り、最低賃金以下で働いていた時期もありません。今は現金支払いだけではなくカード決済が多く、決済手数料の負担を会社から求められたと言います。交渉し手数料を払わなくてよくなった代わりに、賃金カットされ交渉を続けていると、過酷な労働実態の告発がありました。

地域で住民のみなさんとつながる党の議員と支部のみなさんの活動が心強いと思うとともに、今ほど求められているときはないと感じました。この力をもっと大きくするために頑張りたい。